

河川事業の再評価概要書

() は、当初計画時

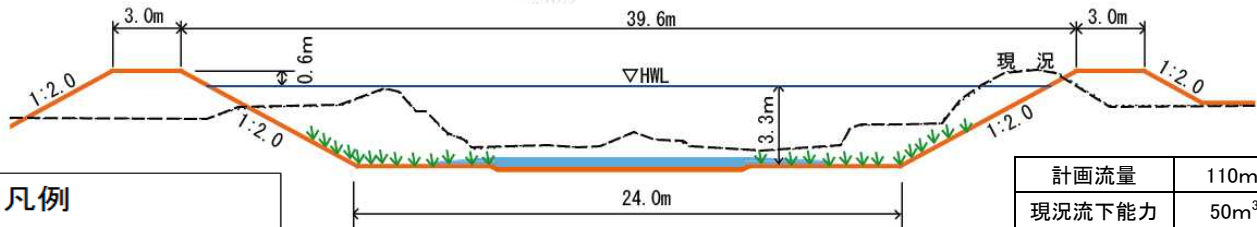
		番 号	1																
		事業主体	栃 木 県																
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課															
路線・河川名	一級河川 <small>えがわ からすやま</small> 江川 (烏山)		事業箇所名	<small>な す からすやまし むかだ</small> 那須烏山市 向田															
事業区間	<small>な す からすやましむかだ あらかわごりゅうてん</small> 那須烏山市向田 (荒川合流点) ～ <small>たま からすやませんかりゅう</small> 滝 (JR烏山線下流)		事業延長	3,200m															
平成16年度事業化		平成17年度用地着手		平成17年度工事着手															
事業期間	(H20) H16年度 ～ H28年度		事業進捗状況	基準年次：【平成25年度末時点】 進捗率															
[うち用地補償費]	[0.7億円]		[うち用地補償費]	[0.5億円] [68%]															
全体事業費	4.3億円		既投資事業費	3.5億円 81%															
事業概要																			
<p>江川(烏山)は、矢板市山田地先の里山に源を発し、<small>えんな</small>塩那丘陵を南東方向に流れ、さくら市を経て那須烏山市向田にて荒川に合流する一級河川である。</p> <p>江川(烏山)の事業区間(荒川合流点からJR烏山線下流)は、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や公共施設及び田畑に浸水被害が発生している。</p> <p>このため、河川断面の拡大を図り、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。</p>																			
事業を巡る社会経済情勢等の変化																			
特になし																			
事業の投資効果																			
1 費用対効果分析結果																			
<table border="0"> <tr> <td></td> <td></td> <td>【総便益(B)】</td> <td>【総費用(C)】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 事業全体</td> <td>B/C=4.0</td> <td>22.7億円</td> <td>5.7億円</td> <td>[L=3, 200m 区間]</td> </tr> <tr> <td>(2) 残事業</td> <td>B/C=1.2</td> <td>1.2億円</td> <td>1.0億円</td> <td>[L=2, 100m 区間]</td> </tr> </table>							【総便益(B)】	【総費用(C)】		(1) 事業全体	B/C=4.0	22.7億円	5.7億円	[L=3, 200m 区間]	(2) 残事業	B/C=1.2	1.2億円	1.0億円	[L=2, 100m 区間]
		【総便益(B)】	【総費用(C)】																
(1) 事業全体	B/C=4.0	22.7億円	5.7億円	[L=3, 200m 区間]															
(2) 残事業	B/C=1.2	1.2億円	1.0億円	[L=2, 100m 区間]															
2 事業の整備効果等																			
整備を図ることにより、宅地や公共施設及び田畑の浸水被害が軽減される。																			
事業の進捗状況等																			
1 事業の進捗状況																			
<p>事業延長3,200mのうち、<small>しんばし</small>新橋(一般国道294号)から<small>しのざわばし</small>篠沢橋までの約1,100mの整備が完了している。主な未整備区間は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川合流点から新橋(一般国道294号)までの約700m ・篠沢橋より上流の約1,100m ・JR烏山線より下流の約300m 																			
2 今後の事業進捗の見込み																			
平成28年度事業完了を目標に、引続き河川整備を進める。																			
コスト縮減等																			
1 コスト縮減方策																			
工事で発生した残土を他事業に流用し、工事費の縮減に努める。																			
2 代替案立案等の可能性																			
残区間の整備については、実現性及びコスト等において、現河道の改修に優る代替案がないため、現計画が妥当である。																			
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。																	

事業箇所(位置図、概要図)

位置図



標準断面図



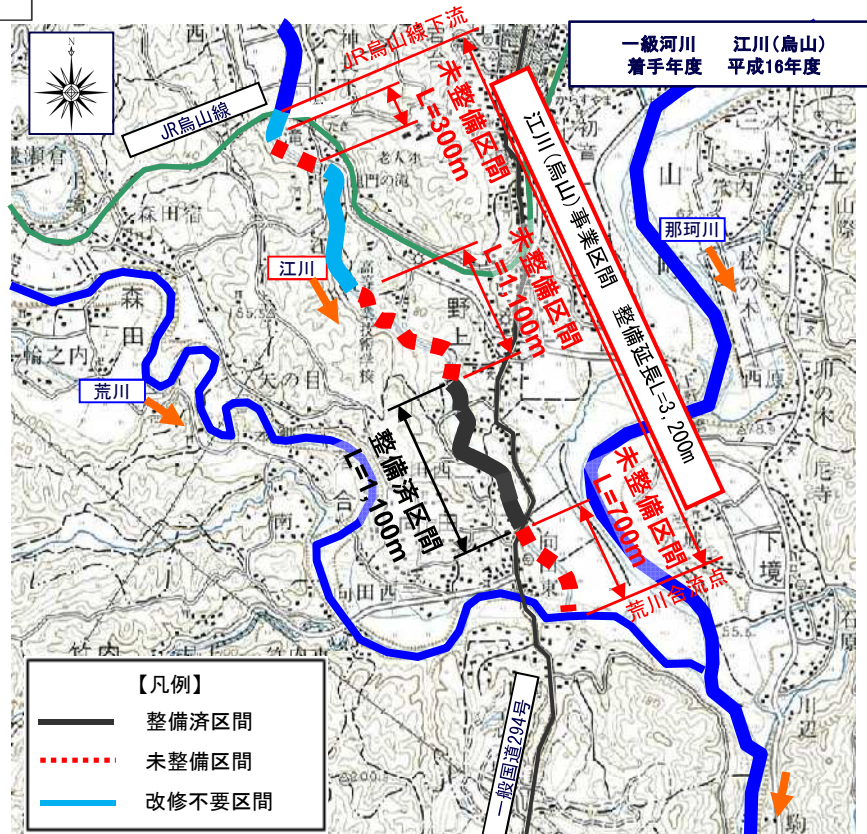
計画流量	110m ³ /s
現況流下能力	50m ³ /s

計画河床勾配 1/400

凡例

- 計画断面
- - - 現況断面

概要図



【凡例】

- 整備済区間
- ⋯ 未整備区間
- 改修不要区間